

<立ち上がって従った>

マルコ 2 : 13 ~ 17

カペナウムの町は、シリアからエジプトに通じる街道を結ぶ交通の要所。

ローマ帝国はここに収税所を置き、通行税を取っていた。

税金を集めるのはローマ人でなく、ユダヤ人が雇われていた。

【収税人】

ローマ政府の手先。同胞からも不当に税を取り立てて、お金を稼ぐ売国奴。切り者、売国奴として疎まれ嫌われ、社会的立場も与えられていなかった。

◆ 収税所に座っていたレビの元にイエス様がやって来た！

イエスは、道を通りながら、アルパヨの子レビが収税所にすわっているのをご覧になって、「わたしについて来なさい」と言われた。すると彼は立ち上がって従った。【14節】

- ① イエス様はレビをご覧になった
- ② 「私について来なさい」といわれた
- ③ すると彼は立ち上がって従った

この短いフレーズの中で、何が起こったのか？！

- 収税人レビ
- ・レビが自分から会堂に行って、聖書の教えを聞くことは有りない。神という存在に触れる機会も、神を信じる人たちとの日頃の付き合いも全くなかった。イエス様とは無縁！
 - ・マタイの福音書を書いたマタイ。「収税人マタイ」と自分の事を呼んでいる。(マタイ 10 : 3)
 - ・名前の意味は「神の贈り物・神の賜物」

◆ 収税人レビにイエス様の方から近づいて声をかけられた！

ご覧になった 「正しく、見つめる」 レビの孤独 レビの葛藤 レビの本心
たまたま通りかかったのではなく、誰からも敬遠されていたレビを見つめ、レビに会うために訪ねた。

「立ち上がって」 ①横たわった状態から起き上がる ②死からよみがえる
③起こす、誕生させる、出現させる

◆ マタイ(レビ)の人生は 180 度変えられた！

そんな簡単に変わるのだろうか・・・？

今まで生きてきた方向を転換した。神の方に向きを変えた。

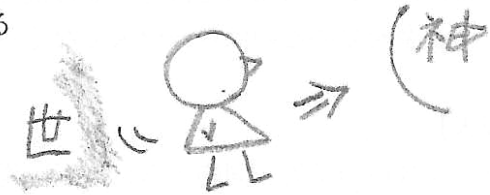
シンプル！ しかし、向きを変えるのは決断が要る。

悔い改め = 方向転換・向きを変える

向きが変わると、見える景色が変わる。

どこを見ているか。誰と一緒にいるか。

これが人生の行き先を決める。



◆ マタイが変えられた。それはその後のマタイの取った行動が大きな証拠。

それから、イエスは、彼の家で食卓に着かれた。取税人や罪人たちも大ぜい、
イエスや弟子たちといっしょに食卓に着いていた。こういう人たちが大ぜいいて
イエスに従っていたのである。【15節】

自分が受けた喜びを仲間達にも分かち合った。マタイはイエス様と罪人との
橋渡しとなった。

◆ 罪人とは一緒に食事をしない

食事を共にすることは、互いを受け入れ、深い親しみの交わりを示していた。

だから、パリサイ派の律法学者たちは、このイエス様の行動を理解しなかった。

「なぜ、あの人は取税人や罪人たちといっしょに食事をするのですか。」

なぜ・・・？ それは 「医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。わたしは
正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。」

自分が病気だという自覚がなければ医者に診てもらおうとはしない。

自分が罪人だという自覚がなければ、罪を赦してもらおうと神の元へは来ない。